誌上シンポジウム

生 涯 発 達 論 と 教 育

研究委員代表：久　世　敏　雄

誌上シンポジウムにあたって

紀要は，今年で38巻を数える。当初から，学部の総合研究，試験研究などの共同研究に加え個人研究がもりこまれていた。その後，11巻から両学科に分けて編集しているが，その内容は，従来の型をほぼ踏襲したものであった。

教育心理学科では，今回，こうした編集の方針を若干修正することにした。今年度に入ってから，「紀要編集の小修正について」の提案が研究委員の梶田教授からなされた。その趣旨は，「教育心理学の基本問題」について，研究委員が中心となり，そのときどきの現代的なテーマをとりあげる。また，紙上シンポジストは，必ずしも教室員に限らず，広く外部の専門家にも依頼する，というものであった。数度にわたる教室会議において，この提案は慎重に討議された。

こうした経緯をたどって，この紀要では，テーマ「生涯発達論と教育」が巻頭をかざることになった。

教育の根幹をなす教育活動は，今日では，学校教育中心の活動に変化のみられることが予想されており，情報化と国際化社会にみあった教育心理学のあり方を展望することは，きわめて重大である。学校教育は生涯学習（教育）の視点から見直すことが必要であり，教育心理学も，教育ないし教育心理学の現代的課題を探究することを期待されている。こうした視点をふまえて今回は，「生涯発達論と教育」というテーマを掲げている。

ご多忙中のところ，しかも短期間の中にこの紙上シンポジアムにご参加くださった提案者と討論者の方々に，謝意を表わすものである。また，こうした教室の試みが，せめて10年ぐらいは継続することを教室の一員として心から希望する。